

山梨縣布達之寫

明治九年
十月

四

六四

C2
1113
53-06

本

明治九年十月

名^カ 兩^リ
附^キ 假^カ

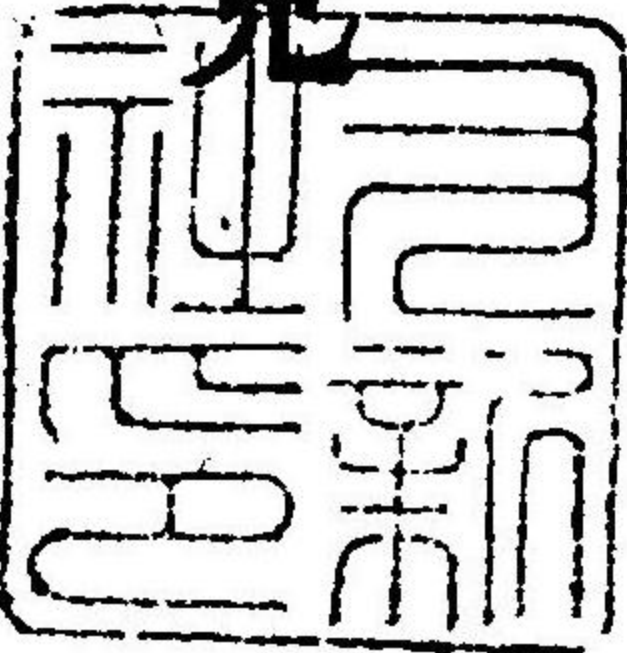
山梨縣布達之寫

やまなしけんれふれのうつし

C2
1113
55-06

甲府常盤町四番地

又新社發兌



本縣甲第二百九十五號より第三百卅四號まで
 乙第九十三號より第百一十一號まで
 太政官第百二拾三號より第百卅六號まで
 大藏省甲第二十號より第二十三號まで
 内務省甲第三十五號より第四十號まで
 司法省甲第十二號より第十三號まで
 陸軍省甲第五號
 工部省第十七號より第十八號まで
 地租改正事務局甲第二號
 農部省布達第五號より第六號まで

明治九年 十月 名附 山梨縣布達之寫索引

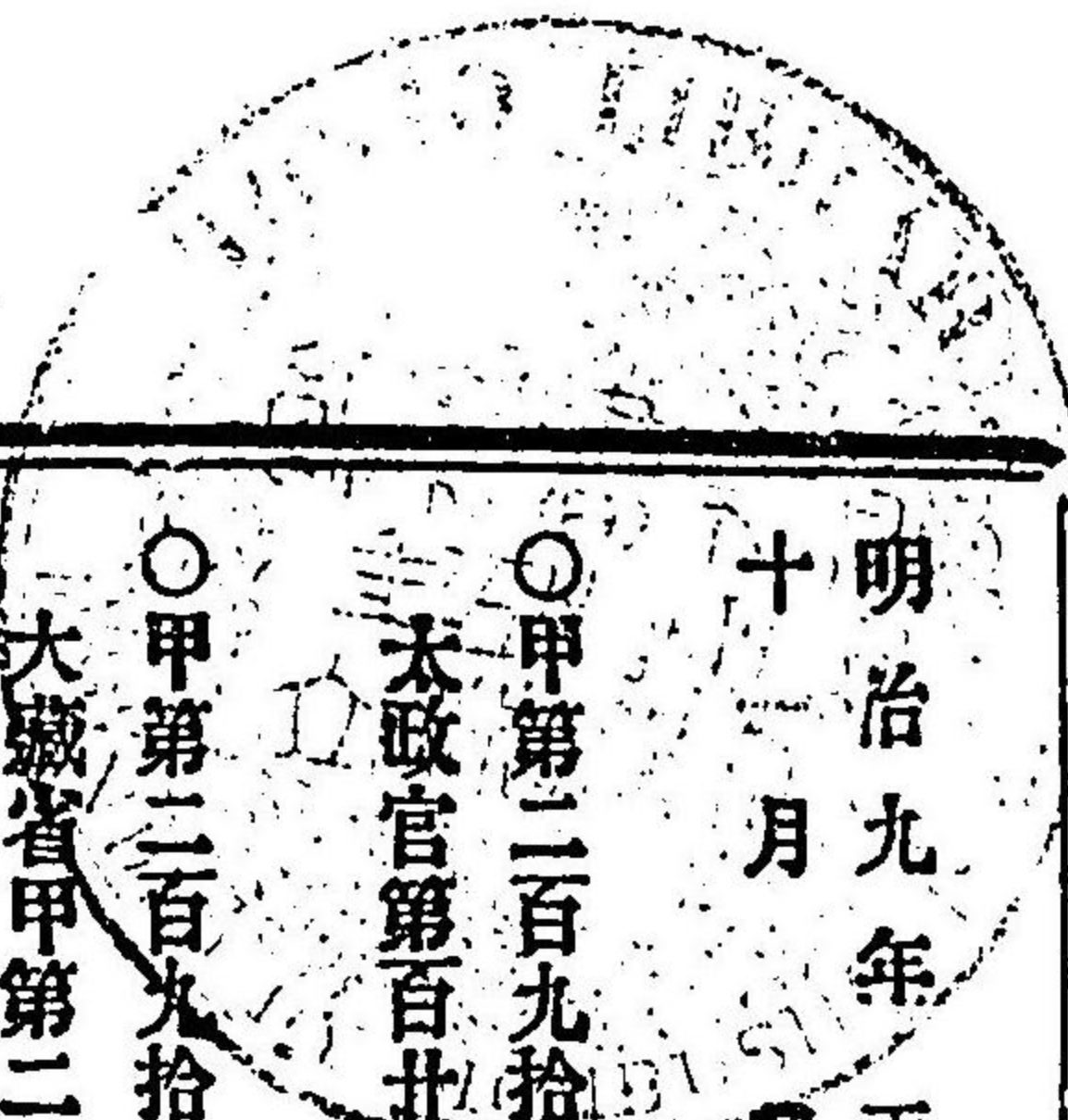
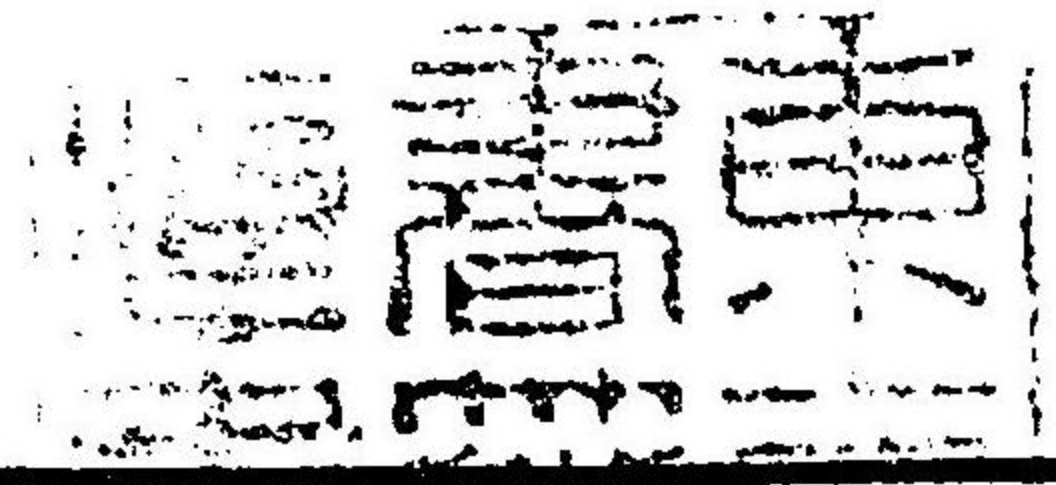
○甲第二百九拾五號 十月二日 貫屬祿高引直云々 一丁

○甲第二百九拾六號 同日 銘酒釀造酒類受賣免許鑑札紛失 一丁

○甲第二百九拾七號 同三日 内國勸業博覽會規則中改正增加 一丁

○甲第二百九拾八號 同日 區畫御改定 三丁

○甲第二百九拾九號 同四日 種痘規則改正 七丁



本縣甲第二百九十五號より第三百卅四號まで
 乙第九十三號より第百十一號まで
 太政官第百三拾三號より第百卅六號まで
 大藏省甲第二十號より第二十三號まで
 内務省甲第三十五號より第四十號まで
 司法省甲第十二號より第十三號まで
 陸軍省甲第五號
 工部省第十七號より第十八號まで
 地租改正事務局甲第二號
 農部省布達第五號より第六號まで

明治九年 十月二日
 十一月 名附

山梨縣布達之寫索引

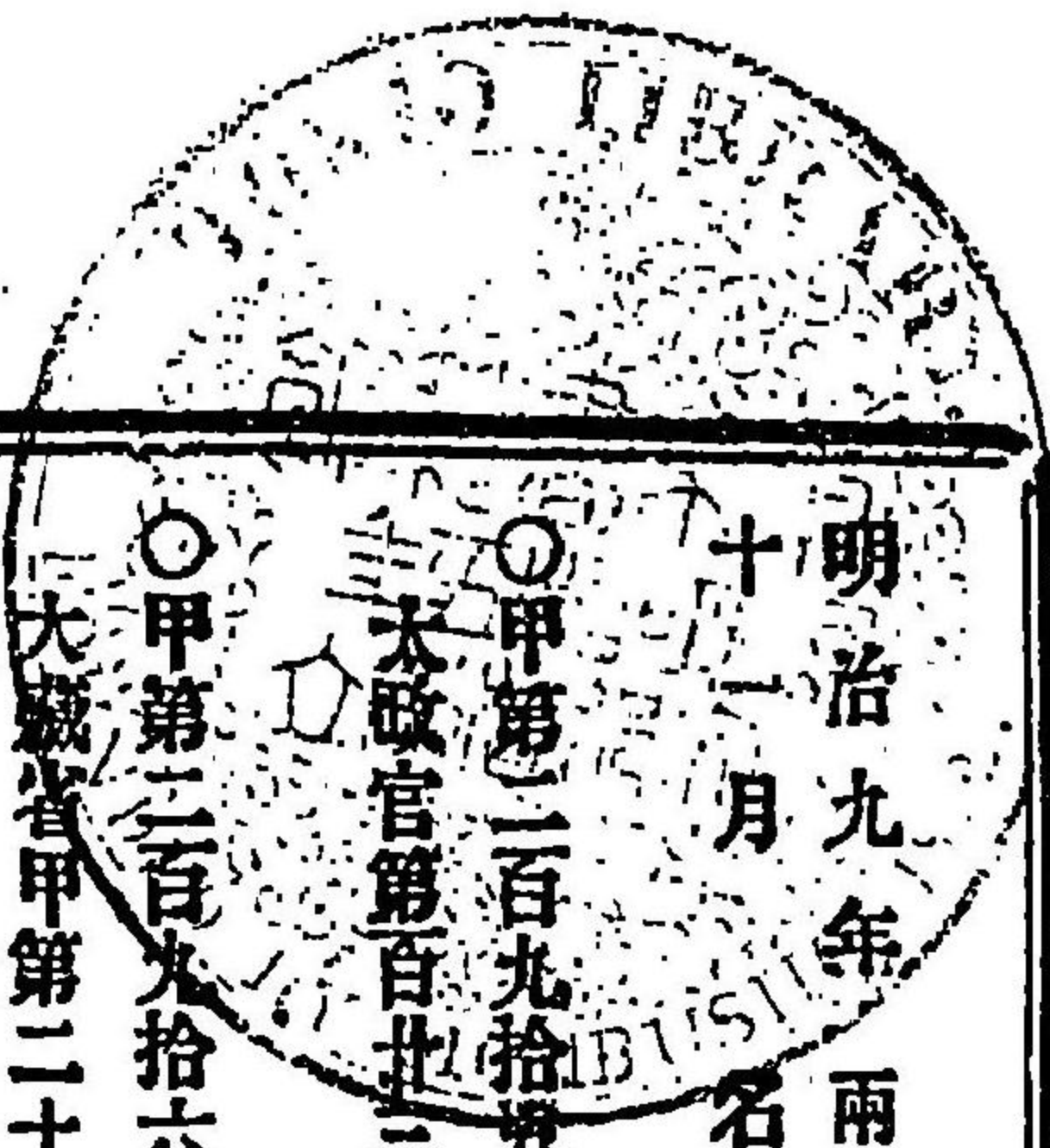
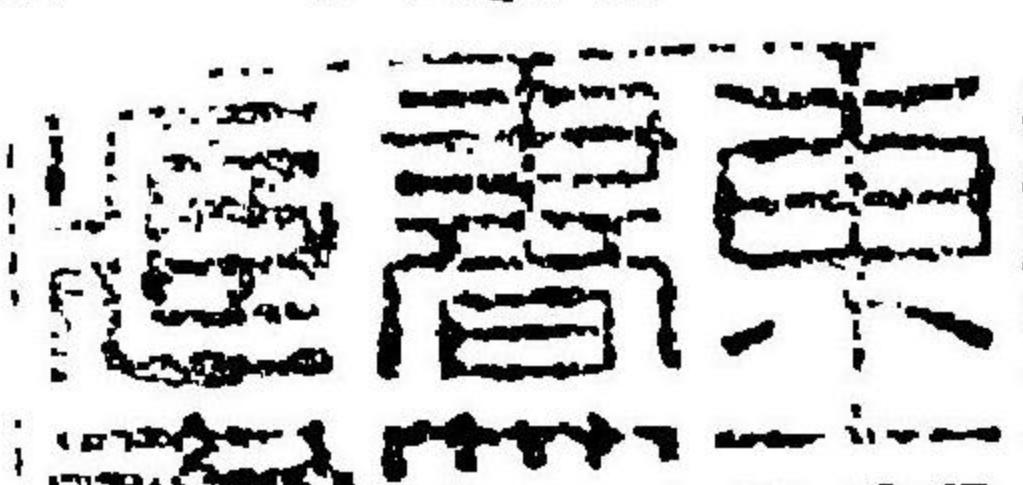
○甲第二百九拾五號 十月二日 貫屬祿高引直云々 一丁

○甲第二百九拾六號 同日 銘酒釀造酒類受賣免許鑑札紛失 一丁

○甲第二百九拾七號 同三日 内國勸業博覽會規則中改正增加 一丁

○甲第二百九拾八號 同日 區畫御改定 三丁

○甲第二百九拾九號 同四日 種痘規則改正 七丁



○甲第三百號

同日

米油限月賣買類
似之業体云々

七丁

○甲第三百一號

同五日

營業規則第一條中追加

七丁

○甲第三百二號

同日

外國人に係る民事
刑事訴訟手續被定

七丁

司法省甲第十二號

十九月二日

○甲第三百三號

同六日

株式取引條例中御改正

八丁

太政官第百廿四號

十九月二日

○甲第三百四號

同日

埼玉縣管下飛地
東京府へ御編入

八丁

內務省甲第卅七號

十九月二日

○甲第三百五號

同九日

羊毛御買上規則

八丁

內務省甲第卅六號

十九月二日

○甲第三百六號

同十一日

清酒釀成届出日限

十丁

○甲第三百七號

同日

司法省甲第三號御
布達中刪除之件

十丁

司法省甲第拾三號

四月

○甲第三百八號

同十二日

主船察定雇職
工規則云々

十丁

海軍省甲第五號

十九月三日

○甲第三百九號

同日

種痘世話掛被廢

十二丁

○甲第三百拾號

同十六日

工部省十二十五兩號
御布達中增補正誤

十二丁

工部省

十月

○甲第三百十一號

同日

第一國立銀行
幣發行通貨交換

十二丁

大藏省甲第廿一號

十月

○甲第三百十二號 同十七日 秩祿公債証書紛失 十二丁

○甲第三百十三號 同十八日 第五國立銀行紙幣發行通貨交換 十二丁

○甲第三百十四號 同十九日 皇族大禮服制御改正 十三丁

○甲第三百十五號 同日 再犯加等罪例條例御改正 十三丁

○甲第三百十六號 同二十日 尻矢崎金華山燈臺落成 十三丁

○甲第三百十七號 同廿三日 朝鮮國と修好結約 十五丁

○甲第三百十八號 同日 釜山港へ航海免狀願出方手續 廿三丁

○甲第三百十九號 同日 朝鮮國貿易品輸出入手續心得 廿三丁

○甲第三百二十號 同廿四日 樺木裁判所と茨城に被移 廿四丁

○甲第三百廿一號 同日 地券渡方規則中御更正 廿四丁

○甲第三百廿二號 同廿五日 金穀公借共有物取扱方 廿五丁

○甲第三百廿三號 同日 淺草文庫書籍借覽人心得方規則中御改正 廿六丁

○甲第三百廿四號 同廿六日 内務省甲第四十號 八十月十

○甲第三百廿四號 同廿六日 諸嶺山試堀借區
工部省第十八號 十月十九日 願山雛形御改正

○甲第三百廿五號 同日 笹子初狩兩村
別區へ編入 廿八丁

○甲第三百廿六號 同廿七日 製藥學科通學
生規則被設 廿八丁

○甲第三百廿七號 同日 本年八月御布
告中剛去之件 廿八丁

○甲第三百廿八號 同廿八日 本年五月御布
告中御改正 廿八丁

○甲第三百廿九號 同日 黒住講社改唱之件
教部省布達第五號 十月十三日 廿九丁

○甲第三百三十號 同日 修成講社改唱之件
教部省布達第六號 十月十三日 三十丁

○甲第三百卅一號 同卅日 各營業鑑札を受く
同卅日 三十丁

○甲第三百卅二號 同卅一日 筑前筑後兩國境界被定
太政官第百卅五號 十月十六日 三十丁

○甲第三百卅三號 同日 來る明治十年よ
り曆面印紙貼用 三十丁

○甲第三百卅四號 同日 熊本縣下城徒
追討被仰出 卅二丁

全 乙 號 部 索引

○乙第九拾三號

十月三日

徵兵中正誤心得

一丁

○乙第九拾四號

同日

區畫改正後事務取計方心得

一丁

○乙第九拾五號

同六日

區長總代理並區長輪番被廢

三丁

○乙第九拾六號

同日

從前區長總代理取扱事務一課にて被取扱

三丁

○乙第九拾七號

同十二日

正副戸長種痘事務と心得

四丁

○乙第九拾八號

同日

地租改正新稅施行

四丁

○乙第九拾九號

同廿一日

來叨治十年春普請箇所取調差出日限

四丁

○乙第百號

同廿四日

後備軍官員服務概則中御改正

五丁

○乙第百一號

同日

區長月給御改定

六丁

○乙第百二號

同廿五日

乙號達書中宛名に因り區戶長之心得方云々

六丁

○乙第百三號

同廿六日

廳中各課へ被達件々區長へ被達

六丁

○乙第百四號

同廿七日

區内便宜之地へ事務所設置

八丁

○乙第百五號 同日 本年乙第六十五號達御改定 八丁

○乙第百六號 同廿八日 太政官第百卅號公布中該規則第二條但書に依り不動産所有者總代人員 九丁

○乙第百七號 同卅日 出廳之節受付へ届出方心得 九丁

○乙第百八號 同日 本縣布達之寫被頒布 十丁

○乙第百九號 同日 出廳之節各課へ出頭 十丁

○乙第百十號 同日 營業鑑札渡方規則被定 十丁

○乙第百十一號 同卅一日 社寺境外私墾田畑之内上地見分以降之侵墾原出取調差出日限 廿二丁

明治九年兩假 山梨縣布達之寫
年十月名附

○甲第百九十五號 十月二日

太政官第百廿三號 九月廿七日

明治六年二月第三拾五號を以て舊藩々賞賜祿高引直し願
比儀同年三月三十一日限り可申出右期限後は一切採用
不致旨布告候處爾後祿高お關し種々願出候向も有之候
得共本年八月第八號布告を以て祿制改定候に付總て現
今の處置を以て定度とし如何様の事實有之共一切採用
不致候條此旨更に布告候事

○甲第百九十六號 同日

大藏省甲第廿號 九月廿五日

一 銘酒醸造免許鑑札第 千三十壹號より 千五拾號まで

貳拾枚

一 酒類受買免許鑑札第 八万六千四百七拾壹號より 八万六千六百七拾號まで

貳百枚

右は本年八月九日三菱會社船社寮丸へ積込神戸若港同支社へ可引渡際紛失候段届出候條右番號の鑑札所持の者見聞に及び候は、速に管轄廳へ訴出管轄廳よりは當省へ可届出此旨布達候事

○甲第二百九十七號 同三日

内務省甲第三十五號 九月廿二日

本年八月當省甲第三十一號布達明治十年内國勸業博覽會

諸規則中別紙の通り改正増加候條此旨布達候事

明治十年内國勸業博覽會規則

第一條

〔三月十五日より同年七月十五日迄〕を

〔八月二十一日より同年十一月三十日迄〕と改む

第九條 増加

但之有合品は本局より貸與すべし

第十一條

〔出品主は〕の下へ左の文を加ふ

各自出品の上に住所姓名を大書せる記標を掲ぐべし又

第十四條 増加

但し賣たる品の中色澤形狀を損すべき者は審査済の上願に因て出場を許すべし

第十五條

〔花實の類〕の上に左の文を加ふ

〔動物又は〕

第十六條

十年二月廿八日と〔七月廿日〕と改む

第十九條

〔三月〕と〔八月〕と改む

第二十二條

〔百事本局〕の四字を〔本貫又ハ寄留の管轄廳〕と改む

第二十七條

〔代價金七圓を〔代價金五圓〕と改む

第三十三條 追加

出品者へは審査官の品評を由り賞譽あるべし

同出品規則

第八條

〔一月十五日〕と〔五月三十日〕と改む

第九條

(二月廿八日)を(七月三十一日)と改む
同附屬賣物店規則

第六條

(一月三十一日)を(六月卅日)と改む

第七條 追加

此賣物店は本會開場中許可せる事なれば開場當日より
開店を許さ本會閉場同日閉店し三十日以内に取拂ふべ

○甲第二百九十八號 同日

従前の區畫と應へ更に別表の通改定俟條此旨布達候事

山梨縣改正區畫表

改正區	郡	舊區	同上より 分合せし 村
壹	山梨	壹	村町名
貳	全	四七	住吉 稻門 山城 朝井 國里 清田 甲運 里垣 岡部
三	巨摩	貳	鎌田 大里 富田 豐住 西條 二川 押原 三條 常永 稻積 暇忍 小井川 貫川 玉橋 龍王 花輪
四	山梨	三五六	元連 雀元 紺屋 新紺屋 元城屋 細工 大工 愛宕 廣庭 横田 元柳 堅元 穴山 新柳 元三 日相 川元 縁久 保 白木 御崎 横澤 疊和 田小 松袋 塚原 上積 翠寺 下積 翠寺 掛部 古府中 岩窪 飯沼 大宮 千塚 能泉 千代田

十六 全	十五 全	十四 全	十三 全	十二 全	十一 全	十 全	九 全	八 全	七 摩 巨	六 全	五 摩 巨
卅一 卅二	廿九 三十	廿五 廿七 廿八	廿三 廿四 廿六	廿一 廿二	十九 二十	十六 十八	十四 十五	十一 十二 十三	九 十	六 八	五 七
	内 同卅一の 歟澤	内 同廿六の 下今井 豊				内 同十七の 小泉	内 同十七の 大泉			内 同九區の 更科	
五開大須成西島手打澤寺澤夜子澤曙飯宮 伊沼八日市場切石	野々瀬落合塚原湯澤川上秋山平林増穂歟澤	明穂豊 下今井南湖三惠鏡中條藤田淺原五明 大井 柳	御影田の岡上今諏訪源 飯野蘆安西野在家塚 百田下今諏訪	清哲神山圓野 旭 大草龍岡	風來菅原新富駒城武里	日野春小泉篠尾清春小淵澤秋田	安都那安都玉熱見甲大泉	朝神穂足若神子増富江草東向豊田清里津金	河原部祖母石駒井下條中田穴山	登美穂坂換崎更科上手小笠原三の藏	福岡松島池田陸澤清川宮本吉澤

廿九	都留	二十	小菅 西原 丹波山 桐原
三十	全	十一	富濱 大目 甲東 大鶴 梁川 巖 嶋田 上野原
一十三	全	九	大原 盛里 賑岡 七保
二十三	全	三	三吉 盛里 道志 秋山 開地
三十三	全	四	谷 禾生 寶 初狩 笹子 桂
四十三	全	七	大富 河口 大石 勝山 大嵐 鳴澤 長濱 瑞穂 明見 福地 中野 忍野 西湖

○甲第二百九拾九號 同四日

本年五月當縣甲第百八拾九號種痘規則中改正布達第一條
とあるは第二條に誤に候條此旨布達候事

○甲第三百號 同日

米油限月賣買の儀は明治七年十二月太政官第三百三十八
號公布の趣も有之候處萬一從前の慣習私則等に據り右
に類似の業体等相營候者有之候ては不都合に候條心得
違の者之無様可致此旨布達候事

○甲第三百一號 同五日

明治八年甲第三百三拾六號布達水車其外營業規則第一

條へ左書の通追加候條既に營業の者は其町村戸長へ願書差出來る二十日迄に各區々長より取摺可差出此旨布達候事

一 各種織物仲買

○甲第三百二號

同日

司法省甲第拾二號 八月廿

明治八年當省甲第三號を以て布達候内國人より外國人に係る民事刑事の訴訟手續中今般左の通相定候條此旨布達候事

第一條

内國人原告にて外國人に係る刑事並に民刑附帯の訴訟は檢事其他の警察官其他の府にては警視廳其に於て之を承け直又被告人管轄の外國領事へ照會し裁判を求むべし

第二條

前條の場合に於て犯罪の爲め損害を受たる者其償を求むる民事の訴は總て本人の望に任むべし

○甲第三百三號

同六日

太政官第百二拾四號 八月廿

明治七年十月第百七號及び同八年七月第百拾六號を以て布告候様式取引條例中左の通り改正候條此旨布告候事

(勸業頭)の三字を刪除(内務省に於て)六字に代へ(但し)の下(勸業頭)の三字を刪除(内務省に於て)の六字を挿入す

第三拾五條第一節中

(勸業頭)の三字を刪除し(内務省)の三字を挿入す

○甲第三百四號

同日

内務省甲第三拾七號 九月廿八日

埼玉縣管下武藏國葛飾郡寄卷村飛地反別三畝八步東京府管下同國同郡下小合村へ編入候條此旨布達候事

○甲第三百五號

同九日

内務省甲第三十六號 九月廿七日

綿羊養致し候者剪毛賣捌方差支廢業致候者も有之哉に相聞候間當分の内勸業寮に於て剪毛可買上候條望の者は左の規則に照準同寮へ可申出此旨布達候事

羊毛買上規則

一 綿羊剪毛買上方願之者と剪毛に汚穢無之標冷水にて能く洗ひ乾燥之上實斤數可申立事

一 願之者は兼て養致之頭數を記去剪毛と共に管轄廳へ差出可申於管轄廳は斤數等篤と検査之上相違無之候は、代金は該廳豫備金之内より繰換下渡養人姓名

宿所養之頭數并剪毛之斤數調書及代金請取證相添
現品東京四谷内藤新宿勸業寮出張所へ可送付該金は
追て同寮より償却候事

但去運賃之儀も證書相添本文同様可相心得事

一 養人より直に前同所へ送付候節は當人持参候
共又は郵送候共都合たるべし最郵送候節は代金可請
取證書を添て可送付事

但去郵送する者は姓名宿所養之頭數剪毛之斤數
共詳細認め送るべき事

一 前條検査之際油膩の爲に腐敗致し居候或は汚穢洗

滌方不行届之分は買上不相成候條篤く注意可致事

一 代價は當分之間壹斤即百二お付(メロノ)羊毛と金三

拾錢(レストル)羊毛(サウス、メチン)羊毛(コツナルド)羊毛は

共に金貳十五錢支那羊毛は金貳拾錢を以て買上候事

一 羊毛買上の義は各自養致之候分に限り候條他人の
羊毛を買取賣上げ候義は一切不相成候事

○ 甲第三百六號 同十一日

清酒醸造高検査の儀本年より其年十二月翌年二月同四
月都合三度に致検査候條各醸造人に於て醸成の清酒石
高届書右検査前月二十日限り其町村戸長連署を以て其

區區長へ差出區内取纏同月三十日限り各區區長より可届出此旨布達候事

○甲第三百七號 同日

司法省甲第十三號 十月四日

昨明治八年五月當省甲第三號布達條中内國人より外國人に係る民事の下(刑事)の二字剛除候條此旨布達候事

○甲第三百八號 同十二日

海軍省甲第五號 九月三十日

先般當省所轄主船察被相廢候に付ては本年四月甲第二號を以て及布達候同察定雇職工規則之儀は自今海軍造船

所定雇職工規則と相心得隨て右規則中主船察之三字は造船所と相改候儀と可心得此旨布達候事

○甲第三百九號 同日

種痘世話掛相廢候條此旨布達候事

○甲第三百拾號 同十六日

本年工部省第拾二號 當縣甲第二四號 同第拾五號 當縣甲第二號 布達中增補正誤の儀左之通達有之候條此旨布達候事

第拾二號第拾五號布達增補正誤

本年七月當省第拾二號同月九第十五號布達中左之通增加正誤候條此旨更に布達候事

第十二號と明治六年第四號云々との間、左の一行を加ふ

根室國納沙布崎燈標並に同港辨天島竿燈第五號

第十五號釜石浮標設置布達中第五號は六號の誤

○甲第三百十一號 同十六日

大藏省甲第二十一號 十月十日

本年八月一日第百六號を以て、布告相成候國立銀行條例の趣旨を遵奉老銀行創立の儀第一國立銀行より出願候に付、願意聞届九月廿六日開業免狀を下付し、銀行紙幣發行せしめ、同銀行東京本店に於て通貨を以て交換爲致候

條公債証書の利息と海關税を除くの外租税其他一切公私の取引に於て總て無疑念受授可致此旨布達候事
但し銀行紙幣の儀は最前發行の紙幣を相用候得共、頭取支配人の名印を朱消し更に當任の頭取支配人の名印に改換事

○甲第三百十二號 同十七日

大藏省甲第廿二號 十月十日

岡山縣下士族中村昇尙所持明治八年發行秩祿公債證書五拾圓印六九五五七番二枚、貳拾五圓印五五五六七番二枚、紛失の趣、届出候條、以後右種類番記號の證書は一切取

引を爲べからず又何人に不限所持致居候を見聞候者は速に管轄廳へ可訴出管轄廳よりは即當省へ可届出此旨
布達候事

○甲第三百十三號 同十八日

天藏省甲第廿三號 十月十日

本年八月一日第百六號を以て布告相成候國立銀行條例の趣旨を遵奉し銀行創立の儀第五國立銀行より出願候に付願意聞届本月五日開業免狀下付老銀行紙幣發行せしめ東京第一大區拾四小區癩殺町一丁目一番地又在る同銀行本店に於て通貨を以て交換爲致候條公債証券利

息と海關税を除くの外租税其他一切公私の取引に於て總て無疑念受授可致此旨布達候事

但し銀行紙幣の儀は最前發行の紙幣を相用候事

○甲第三百十四號 同十九日

太政官第百二拾五號 十月十日

明治六年二月第六拾四號布告皇族大禮服制別冊圖式れ通り改正候條此旨布告候事 (大禮服制表並圖は略す)

○甲第三百十五號 同日

太政官第百貳拾六號 十月十日

本年七月第百四號布告再犯加等罪例條例左の通り改正候

條此旨布告候事

再犯加等罪例條例

凡初犯再犯各盜罪を犯し己に斷決を経て又盜罪を犯す者は其輕き所の盜罪三犯を以て論す若し後犯の罪重き者は重きに從て論す假令ば初犯竊盜再犯強盜に去て三犯監守盜なる者は竊盜三犯を以て論す初犯竊盜よ去て再犯三犯強盜なる者は強盜再犯を以て論するの類

○甲第三百拾六號

同廿日

工部省第拾七號 十月二日

今般青森縣下尻矢崎燈臺及び宮城縣下金華山燈臺落成

に付尻矢崎は本月廿日より金華山は來る十一月一日より毎夜點火候條此旨布達候事

但し燈臺の位置形狀等は左之通り候事

明治九年西曆千八百零七年第七號

尻矢崎燈臺

一陸奥國尻矢崎へ建築せる燈臺へ第二等不動白色燈明を設け明治九年十月廿日西曆千八百八十一年十月廿日と始と去日没より日出まで毎夜點火す
一尻矢崎之津輕海峽の東口に去く此地は英國海軍局第二千四百四十一號の海圖に依れば北緯四十一度二十

六分十秒にして(グリーンエツチ)より東經百四十一度二十九分二十五秒に當る

一(ラットレル、ロツク)と唱ふる岩は燈臺より北六十五度

東に當る其距離凡一里四分の一里あり

一燈明は海面三百十度二十五分と照輝し一方は南五十

二度十八分西又一方は南二度四十三分西の方位にて

蔽蔭す但し右之眞方位あり

一燈臺は白色圓形煉化石造にまて基礎より燈籠の中央

まゝ高さ九丈三尺五寸なり

一燈火は高さ海面より十五丈にまて其光線十八里半海

に達す

明治九年西曆千八百七十六年第八號

金華山燈臺

一陸前國金華山へ建築せる燈臺へ第一等不動白色燈明

を設け明治九年十一月一日西曆千八百七十六を始と

し日没より日出まゝ毎夜點火す

一金華山は仙臺灣の東北なる半島の東南端を離るゝ一

島なり燈臺は該島の東側に建築そ此地は英國海軍局

の第貳千三百四拾七號の海圖に依れば北緯三拾八度

十九分にまて(グリーンエツチ)より東經百四拾一度三十

一分に當る

一燈明は海面二百十六度を照輝一一方は燈臺の北九度東又一方は南四拾五度西の方位にて蔽蔭を但右は眞方位なり

一燈臺は圓形御影石造にして基礎より燈籠の中央まで

高さ二丈七尺五寸なり

一燈火は高さ海面より十七丈八尺ありて其光線凡十九里半海に達す

○甲第三百拾七號

同廿三日

太政官第百廿七號 十月十四日

今般朝鮮國と修好條規附録并に貿易規則別紙之通結約相成候條此旨布告候事

修好條規附録

日本國政府爰に特命全權辦理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黒田清隆特命副全權辦理大臣議官井上馨をして朝鮮國江華府に詣らせめ同國政府は大官判中樞府事申據副官都總府副總官尹滋承に委任し日本曆明治九年二月廿六日朝鮮曆丙子年二月初二日雙方互に調印せたる修好條規第十一款の旨趣に従ひ日本國政府は理事官外務大丞宮本小一に委任し朝鮮國京城に詣り朝鮮國政府と

講修官議政府堂上趙寅熙に委任し相會同きて議立する
條款左に開列す

第一款

嗣後各港口駐留日本國人民管理官朝鮮國沿海地方に於
て日本國に諸船困難に遭ひ緊急なりと聞くときは地方
官より告げ該地に到る道路と経過とを得べし

第二款

嗣後使臣及管理官より各埠へ通する送文は自費を以て
郵送するも或は該國人民と雇ひ專差するも各其便に従
ふべし

第三款

議定せられたる朝鮮國通商各港に在りて日本國人民地基を
租賃せ住居するは各其地主と相議きて價を定むべし朝
鮮國政府に屬する地は朝鮮國人民より官に納ると同一
の租額を出しく住居すべし釜山草梁項日本公館には従
前同國政府より守門設門を設けしか今後之を廢撤し一
に新定の程限に依り標を界上にお立つべし他の二港も亦
此例を照と

第四款

嗣後釜山港に於て日本國人民行歩を得べき道路の里程

ハ波戸場より起算去て東西南北各直徑十里朝鮮里法と
定む東來府中に至ては里程外に在りと雖特に往來を爲
す此里程内に於て日本國人民隨意行歩一其地の物産及
び日本國物産を賣買するを得べし

第五款

議定去たる朝鮮國各港に於て日本國人民は朝鮮國人民
を賃雇するを得べし朝鮮國人民其政府の許可を得て日
本國に來るも妨無し

第六款

議定去たる朝鮮國各港に於て日本國人民若し死去去た
る時は適宜の地處を選り埋葬するを得べし但他の二港
の埋葬地は釜山埋葬地の遠近の例に依る

第七款

日本國人民日本國の諸貨幣を以て朝鮮國人民の所有物
と交換し得べし又朝鮮國人民は交換を買得たる日本國
の諸貨幣を以て日本國の諸貨物を買入る、爲め朝鮮國
指定の諸港にては人民相互に通用するを得べし日本國
人民は朝鮮國銅貨幣を使用運輸するを得べし兩國人民
私に錢貨を鑄造する者あれを各其國の法律に照して處
斷すべし

第八款

朝鮮國人民日本國人民より買得たる貨物或は贈與を受たる諸物品は隨意使用えて妨無き

第九款

修好條規第七款に載する旨趣に従ひ日本國測量船小船を放ち朝鮮國沿海と測量する時或之風雨に逢ひ或は干潮の爲め本船に歸る能はざる時は該處里正より其近傍の人家に安着せまむべし若し需用の物品あらば官より辨給し後日其入費を完済そべき

第十款

朝鮮國は未だ海外諸國と通信せし日本國と年來諸國と締盟友誼あるの故を以て今後朝鮮國の沿海へ諸國の船舶風波の爲め困難し漂着するあらば朝鮮國人民理よ於て之を愛恤せざる無き該漂民本國に送還せられんを望まむ朝鮮國政府より各港口駐留の日本國管理官に遞付し本國に送還せまむ該官員之を領諾せしむべし

第十一款

右十款の章程及之に添へたる通商規則共修好條規と同一の權を有す兩國政府遵行えて違ふ莫かる可し然れども此各款中若し兩國人民交際貿易上實地の障礙を生ず

改革せざる可からざる事柄と認むる時は兩國政府其議案と作り一箇年前報知して協議決定すべし

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞宮本小一印

大朝鮮開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙印

朝鮮國議定諸港ふ於て日本國人民貿易

規則

第一則

日本國商船日本國政府所管の軍艦及專朝鮮國にて許可

せ之諸港に入津の時船主或は船長日本國人民管理官より渡したる證書を三日の内に朝鮮國官廳へ差出すべし所謂證書ある者は船主所持の日本國船籍航海公證の額を入港の日より出港の日まで管理官に差出し置て管理官より此證書類を預りたる證票を與ふ是を日本國現時施行の商船成規と爲し船主本港碇泊中此證票を朝鮮國官廳へ差出之日本國の商船たることを驗明し此時船主又其記録簿を差出すべし所謂記録なる者は船名並ふ本船を發するの地名積荷の噸數石數を共算定するの容積船長の姓名乗組水夫の人

員船客の姓名を詳記して船主調印せたる者あり
此時船主又本船積荷の報單並に船内所用雜物の簿記を
差出すべし

所謂報單なる者は荷物の名或は其物質の實名並に荷
主の姓名記號番號を詳記しては記號番號なき荷物報知
するあり此報單及其他書類共何れも日本國文を用ひ
て漢譯文を副ると無し

第二則

日本國商船進港の積荷を陸揚げせんと欲する時は船主
或は荷主より更に積荷の物名並に元價斤量個數を書記

し朝鮮國官廳に届出べし官廳届書を得ば速に荷卸せ免
状と渡すべし

第三則

船主或は荷主第二則の免状を得たるの後其荷物を陸揚
げすべし朝鮮國官吏若し之と驗査せんと要するを荷主
敢て之を拒むこと無し官吏亦注意驗査して之が爲め毀
損を致すこと無かるべし

第四則

出港せんとする荷物と荷主第二則入港積荷届書の式と
照し船名並に荷物の品番個數を書記し朝鮮國官廳に届

出づる官廳は速に之を許可し出港荷物免狀を渡すべし
荷主免狀を得ば本船積込むとを得べし官廳若し其荷
物を検査せんと要すれば荷主敢て之を拒むこと無し

第五則

日本國商船出港を要する時は前日正午前に朝鮮國官廳
へ報地すべし官廳報と得心嘗て預り置きたる證書を還
附之出港免狀を渡すべし

日本國郵便船は成規の期限に拘はらせえて出港すると
も必ず官廳へ報知をせよ

第六則

嗣後朝鮮國諸港口に於て糧米及雜穀ども輸出入するを
得べし

第七則

港稅

連桅檣の商船及蒸氣商船稅金五圓

單桅檣の商船稅金貳圓 荷物五百石以上積

單桅檣の商船稅金壹圓五拾錢 荷物五百石以下積 俱に附屬脚艇を除く

日本國政府に屬する諸船舶は港稅を納れず

第八則

朝鮮國政府或は人民諸物品を不開港場の口岸に運輸せ

んと欲する時は日本國商船を雇入る、とて得べき雇主
若し人民なれを朝鮮國政府の免狀に照えて雇役をせし

第九則

日本國船隻若し通商を許さる朝鮮國の港口より到り私
に賣買と爲ると該地方官見届たる時は最寄管理官に引
渡すべし管理官は其所得の錢物一切と取上げて朝鮮國
官廳に交付すべし

第十則

鴉片煙販賣を嚴禁す

第十一則

兩國現お定むる規則は今後兩國商民貿易形況に依り各
委員時に隨て事情を酌量し商議改正せると得べし此か
爲め兩國委員各副印を即日より遵行せしむ

大日本國紀元二千五百三拾六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞宮本小一印

大朝鮮國開國四百八拾五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙印

○甲第三百拾八號 同日

太政官第百二拾八號 十月十四日

従前朝鮮國貿易の儀ハ對馬國人民に限取引いたさせ候

處本年三月第三拾四號布告修好條規及今般第百二拾四號
布告修好條規附錄並に貿易規則の趣旨に遵ひ一般の人
民同國釜山港へ渡航せんと欲する者は差許さる候條海
外行免狀又は航海公證を使府縣廳又は其支廳より申受
渡航可致候尤も旅行先より急に渡航せんと欲する者は
本人より其貫籍を明白に書記し旅行先地方の廳へ願出
許可を受べく候此旨布告候事
但し釜山港の外開港の場所は追て確定の上尙可布告
事

○甲第三百拾九號

同日

太政官第百廿九號 十月十日

自今朝鮮國貿易品は輸出入品とも日本國內地にて諸物
品を運送すると同様に相心得輸出せんと欲る物品と開
港場は税關其他は出船地の區務所より荷物送り狀に檢
印申受朝鮮國開港場派出の日本管理官へ右送り狀差出
朝鮮地方へ輸入濟れ檢印を申受日本國歸着の後最前出
船せ元地へ右送り狀可届返候朝鮮國より輸出し來る
物品は送り狀へ管理官の檢印申受日本國各地へ隆揚せ
んとする節右檢印有之送り狀と其地稅關又は區務所へ
差示せたる上陸揚可致候此旨布告候事

○甲第三百二拾號

同廿四日

太政官第百三拾一號 七月十日

栃木裁判所と茨城よ移ま氷戸裁判所と稱え候條此旨布告候事

○甲第三百二拾一號

同日

地租改正事務局甲第二號 五月廿三日

明治八年十一月十一日當局乙第九號と以て地券渡方規則第拾一條の内更正の儀相達候處猶詮議の上左之通改定候條此旨布達候事

地券に記せまの次に

券状壹通に付

(三拾錢未満一厘を改定)金高二圓未満 一 錢

千分の五
即ち拾圓に付

(三拾錢以上百圓までを改正)同 百圓以上 五 錢

○甲第三百廿二號 同廿五日

太政官第百三拾號 七月十日

各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則自今左の通り相定候條此旨布告候事

第一條 凡ろ一區に於て金穀を公借し若くは共有の地所建物等を賣買する時は正副區戸長並に其區内毎町

村の總代貳名づゝの内六分以上之に連印すると要し
しべ

第二條 凡る町村に於て金穀を公借え若くは共有の地
所建物等を賣買する時は正副區戸長並に其町村内不
動産所有の者六分以上之に連印するを要すべし

但右不動産所有者より其總代を撰んで之が代理た
らまひるゝ其都合に任すべし

第三條 凡る區内若くは町村内の土木を起功する時は
其區と町村なるとに隨ひ各第一條若くは第二條に倣
ふべし

第四條 若し第一條第二條及第三條に指示せる場合に
於て唯正副區戸長の印の之を鈐え其須要なる連印を
きもの之總て之を該區戸長限りの私借若くは私の土
木起功と看做すべし其正副區戸長の印のみを以て共
有の地所建物等を賣買えたる者は總て賣買の効を有
せし

○ 甲第三百廿三號 同日

内務省甲第四拾號 十月十日

明治八年甲第二拾二號を以て相達候淺草文庫書籍覽借
人心得方規則中博物本館設立造古書畫の類も當分此文

庫に於て借覽を許すと有之を左之通改正候條此旨布達候事

一 博物本館設立まで古書畫の類は春秋兩度曝涼の序見閱を許す

○ 甲第三百廿四號 同廿六日

工部省第拾八號 九月十日

諸鐵山試堀借區等の願書雛形日本坑法中掲載有之候得共地名其他の認方陳漏より間々推問の手續を費し不都合不少に付今般更に願書雛形別紙の通改正候條圖面相添正副貳通可差出此旨布達候事

但代理を以て願出候向は必ず委任狀相添可差出候事

試堀並借區願書雛形 料紙美濃紙二つ折 正副二通

試堀開坑願 借區開坑願

一 何府何國何郡何村何山 何府何國何郡何村何住 華士族平民 何 某

字 何 但官地 但同盟人あらば外何名と認むべし

但官地

字 何 但官地

但借區は字一ヶ所毎に坪數を記載し 但數ヶ所あらしを其合計をも掲ぐべし

何 礦

右之場所に於て何磁含有致し候見込み付借區開坑致ま
度地元へ及示談候處差支無之所有地に候へ心地元以候
間御許可相成候様仕度圖面相添此段奉願候也

年號月日

願人 何 某印

但同盟人あら心連名連署すべし

前書出願の場所取調候處 同村同字中稼人無之或以稼人
に付御聞届相成度候也

區長 何 某印

何 府 長官何某殿

前書願出の通御聞届相成度候也

年號月日

何 府 長官何某印

工部卿何某殿

○甲第三百廿五號 同日

第三拾三區都留郡笹子初狩兩村の儀第三拾壹區へ編入
候條此旨布達候事

○甲第三百廿六號 同廿七日

第一大學區東京醫學校に於て年齢既に長そるか或は他
の職業よ徒事する等の事故を以て外國語學を脩むるよ
進あらざる者の爲め製藥學科通學生規則相設候旨文部

省より報告有之候條此旨布達候事

但通學規則は區長へ相渡置候條可承合事

○甲第三百廿七號 同日

太政官第三百三拾號 十月廿四日

本年八月第百拾號布告中人民の二字剛去候條此旨布告候事

○甲第三百廿八號 同廿八日

太政官第百卅二號 十月廿三日

本年五月第六拾三號布告第一項及第三項中左の通改正候條此旨布告候事

第一項思量を裁判官の下に〔又は警察官吏〕の六字を加へ捕に就き及の下〔裁判官の〕の四字を除く

第三項各裁判所の下割注と除き及び警察官吏の六字を加へ其呼出たるに下〔裁判所〕の三字及割注共剛除し〔廳〕の一字を加ふ

○甲第三百廿九號 同日

教部省布達第五號 十月廿三日

黒住講社の儀自今神道黒住派と相唱別派差許候條此旨布達候事

○甲第三百三拾號 同日

教部省布達第六號 十月廿三日

概少致正新田邦光結集之修成講社自今神道修成派と相唱別派差許候條此旨布達候事

○甲第三百卅登號 同卅日

自今別記の各業は該區事務所に於て鑑札相渡候條其旨相心得開業いたし度ものは事務所へ申出べし此旨布達候事

但し廢業の節も同様該區事務所へ鑑札返上可致事

無稅比部

線香職 佛師 珠敷職

菓子職	鑄物職	魚問屋
大工職	石工職	柚職
木挽職	鍛冶職	手傳職
指物職	疊職	黒鍛職
左官職	柿葺職	瓦葺職
織物職	同仲買	米穀商
食鹽商	醬油醸造業	紺屋業
絞油業	紙漉業	
有稅の部		
馬稼業	漁業	洋物商

三味線製造業

刀劍製造業

○甲第三百卅貳號 同卅一日

太政官第百三拾五號 十月廿六日

福岡縣管下筑前國御笠郡隈村と筑後國御原郡津古村と
お係る國界字空前舊來不明瞭の地所反別五反二畝二十
一步五合五夕の内四反四畝拾步九合七夕は筑前國に屬
ま八畝拾步五合八勺と筑後國に屬し候條此旨布告候事

○甲第三百卅三號 同日

内務省甲第卅九號 十月十七日

來明治十年曆より本曆略曆共別紙離形印紙貼用可致候

略曆出版の儀ハ自今本曆頒布の後草稿相添出版書式に
照準し府縣廳と經て當省へ可願出出版差許候分は右印
紙相渡候間枚數を限り願出每曆面に貼付の上販賣可致
無印紙の曆は賣買不相成候條此旨布達候事〔印紙は略す〕

○甲第三百卅四號 同日

太政官第百卅六號 十月廿八日

熊本縣下賊徒暴動に付追討被仰出候條此旨布告候事

○乙第九十三號

十月三日

各區

正副區長

同 戶長

本年乙第八十六号を以て相達候徴兵下調心得第三條
幹大度の定月日十月之十一月の誤十五日は十二日と改
正候條此旨相達候事

○乙第九十四號

同日

各區

正副區長

同 戸長

今般甲第貳百九十八號と以て區畫改正之儀及布達候に付ては新舊事務取計方別紙の通相心得諸事不都合無之様可致此旨相達候事

新舊區事務取計方心得

第一條 舊區區長及び書記は新區區長撰舉受任まで従前の通相心得事務取扱ふべし

第二條 新區長受任の上は明治六年乙第百五十七号達區長事務受渡規則に照準新舊役受渡をき其旨届出づべし

第三條 新區長の選舉は此達書到達の當日より十日以内に區長撰舉法により公選投票を執行そべえ

但毎區投票期日は第一課より別段通達そべし

第四條 舊區長及び書記事務引渡までは月俸規則の通之を給し其後在職中の事件に係り事務所其他へ出頭せまひるときは正副戸長旅費日當規則に準え日當を給そべし

但在職中自己の不正等又關出頭せしむるは此限に非ず

第五條 區畫改正の發令當日より事務受渡までに係る

舊區限りの費用當其區長及書記所雜費並に旅費日は該區費に相立事務受渡以後の費用は總て新區一般の課出たるべし

但事務受渡前と雖も新區一般に關はる費用は新區の課出たるべし

第六條 舊區に於て建設の事務所及び附屬品の類と新任區長及び舊區内正副戶長協議の上適宜處分の見込相立伺出づべし

第七條 舊區事務所の公用書類は悉皆新區事務所に集收保存すべし

第八條 新區事務所は區戶長協議の上便宜の場所に決定し該區々長より届出づべし

第九條 新區事務所書記役は新任區長に於て更に人撰申牒すべし

但書記役受任まで假に舊書記役と使用するも妨げなし

第十條 區町村事務所標札及び印章提燈等は更ふ新調之從前の印章は其印影と殘し置き悉皆燒却すべし但從前の書式何郡第何區は山梨縣第何區と改正すべし

○乙第九十五號 同六日

各區

正副區長

同 戶長

區長總代理並に區長輪番相發候條此旨相達候事

○乙第九十六號 同日

各區

正副區長

同 戶長

從前區長總代理に於て取扱ひ候事務之渾て第一課に於

て取扱ひ候條爲心得此旨相達候事

○乙第九十七號 同十二日

各區

正副區長

同 戶長

此般甲第三百九號布達を以て種痘世話掛相廣候に付て
は明治八年十一月十一日甲第三百三十四號布達種痘規則並に種
痘世話掛勤方規則及び本年一月乙第壹號達種痘所々在種
痘世話掛勤方必得書に照準し從前種痘世話掛に於て取
扱ひ候事務は渾て正副戶長にて取扱候儀と可相心得此

旨相違候事

○乙第九十八號

同日

各區

正副區長

同 戶長

地租改正之儀過般調査に租額を以て其筋へ及上申候處
昨明治八年より舊税法相廢之新税施行許可相成候間規
則の通り收税可致此旨相違候事

但市街之儀は昨八年後半より新税施行候事

○乙第九十九號

同廿一日

各區

正副區長

同 戶長

土 木 掛

來明治十年川々並道路橋梁春普請を要すべき村々各區
土木掛に於て實地検査を遂げ冗を省き不急を除き必要
の場所のみ取調箇所附帳に各村正副戶長連署本月三十
一日限可差出此旨相違候事

○乙第百號

同廿四日

各區

正副區長
同 戶長

昨八年十二月當縣乙第百三十一号を以て陸軍省後備軍
官員服務概則相違置候處今般右條中左之通改正の儀同
省より達有之候條此旨相違候事

第九條 凡後備軍に編入する者若本人之籍甲銃臺管下
に在て乙銃臺或は近衛に服役するときは乙銃臺或は
近衛に於て常備免役更に甲銃臺後備軍服役申付之を
甲銃臺に報告し名簿紙へ戶主の姓名並に族職業を記
入し送達せよ甲銃臺に於ては其名簿を據て割符を

製去駐在書長を去て之を本人に附與せよ

○乙第百一號 同日

各區
正副區長
同 戶長

區長月給左之通改定候條此旨相違候事

區長 月給 金拾貳圓
副區長 同 金拾圓

乙第百二號

同廿五日

各區

正副區長

同 戶長

乙號連書中單は區長の名面己を以てするものは區長に
止り區戶長を以てするものは區戶長に止り候儀と可相
得尤連書中人民へ關り(其職業の者へ可相達等の文)候
分は夫々通達可致儀と可相心得此旨相達候事

乙第百三號

同廿六日

各區

區 長

應中各課へ別紙の通相達候に付ては其件相當の取計を
なま夫々回答可致且自今事務調理上に關する一時の照
會又は報告等の小事件は同様書面を以て主務の各課と
往復し事務溢滞無之様可取計尤も公布公達其他成規上
に關する伺及び上申等は従前の通可相心得此旨相達候
事

但本文往復用紙は美濃紙又は大半紙類の譯紙可相用
事

各區村に關する事務調理に際不分明の儀ありて其詳細

を要するか又は期限進達の事件を督促する等全く課中
調理上に関与する小事件は自今官廳往復の体に倣ひ封書
を以て其區々長へ照會乞出廳の勞費相省候様取計ふべ
ま且右控書に如きは各區往復書と題し一簿帳を製册し
各課事務取扱規則第十一條を準據せざる様注意
可致尤人民願同に付調理上不明の廉取調方等其事件
に依り前條を準ずるを得べき此旨相達候事
但本文往復の事件長官或は縣名を以て命令布達する
事件と混同せざる様往意可致事

明治九年十月廿三日

本 應

○乙第四百四號

同廿七日

各 區

區 長

乙第四百三號達に付ては往復書差出方の都合も有之候條
區内便宜の地を撰み速に事務所設置來る十一月五日迄
に可届出此旨相達候事

○乙第四百五號

同 日

各 區

區 長

本年乙第六十五號達左の通改定候條此旨相達候事

戸長

順次

區長

學區取締惣理

學區取締

戸長

勸業掛

土木掛

學校事務掛

各區書記

○乙第百六號

同廿八日

各區

區長

戸長

此般第百三拾號當縣甲第三號を以て各區町村金穀公借共
有物取扱土木起功規則公布相成候處各町村の儀事毎不
動産所有のもの一同協議連印致し候ては實際不便不少
儀に付右規則第二條但書の旨を依り適宜總代人員は一
三人より寡からず七人より取極め規則第一條の旨に既
多からざるを目的とすべし

乙九

ひ右總代中より猶二名の總代を公撰せしめ右人名區限
り取纏め來る二十日限り可届出此旨相達候事
但本文公選の儀は各町村内の不動産所有者を集會せ
しめ村吏公選法に依準し先以て該町村總代の人員を
投票し次て其人名を投票次て落票の總代を於て規
則第一條の旨に隨ひ互に二名の總代を投票せしむべ
し

○乙第百七号 同卅日

各區 區長

自今出廳の節は御用柄並に宿所等を記載し第一課受付
所へ可届出此旨相達候事

但歸村の節も同様相届可申事

○乙第百八号 同日

各區 區長

甲府常盤町又新社刊行本縣布達寫之儀は至便の書冊に
付每号一部づ、頒布候條各區事務所へ可備置此旨相達
候事

○乙第百九号

同日

各區
區長

自今出廳の節は一應各課へ出頭し用向は有無を問ひ
を以て事務相辨し候様可致此旨相達候事

○乙第百十号

同日

各區
區長

此般甲第三百卅一號布達又付營業鑑札渡方規則別冊の
通相定候條渾て右に照準之可取計此旨相達候事

營業鑑札渡方規則

第一條

各區事務所に於て營業鑑札を下附せる業体は明治九年
甲第三百卅一號布達の各業に限るべし

第二條

開止業願は區長宛にて成規の通戸長奥印の願書を出
さまむべし決して口述等と以て受理すべからず
但願書へ別段付紙等に及むず出願に隨ひ即時鑑札を
下附し願書へ年月日鑑札渡濟の趣を朱書し順次綴込
置くべし

第三條

鑑札は凡積を以て受取置出願に隨ひ各業限り其番號順を以て渡方取計ひ成規の通其時々鑑札料収入可致事

第四條

鑑札受拂簿と製一受取高並渡高共第一號離形に依るべし
明瞭詳記一後証に備へ置くべし

第五條

収入の鑑札料は明治九年乙第二十八号租稅徵收規則第四條第五條に倣ひ收入簿を製去請取証と割印の上其納入へ可相渡事

第六條

各種の鑑札並に鑑札料共一月より六月迄七月より十二月迄を一期と去受拂計算帳を調製し第二號離形に依るへ之每期翌月二十日限七月二十日開申可致事

第七條

水火盜難及び過誤等にて鑑札と遺失毀損し書替申出るものある時は顛末取調事實具申可受指渾事

第八條

廢業と申出る時と鑑札返上せしめ鑑札並に鑑札料受拂計算帳一同調書第三號離形に依る相添届出づべし

第壹號離形

何業商鑑札受拂計算簿

每業各一簿冊を製調とべし尤營業人僅少なるものは一簿中に部類を分けるも妨げあり

山梨縣第何區

書 朱

受 の 部

受	年	月	日	摘	要	番	號	枚	數
何	明	治	何	前	日	何	何	何	
何	月	月	何	日	よ	號	號	何	
何	月	何	日	り	越	ま	よ	何	
何	日	日	ま	高	で	り		何	
何	日	日	で	元				何	
	何	同	何	同				何	
	月	月	日	同				何	
	何	何	年	同				何	
	日	日	日	同				何	
	ま	よ	り	同				何	
	で			同				何	
	通			同				何	
	計			同				何	

朱 書

拂の部

渡年月日	摘要	住所	姓名	番	號	枚	數	
明治何年 何月何日	新規	何村何組	何	某	何	號	壹	枚
同	代替書替	同	同	同	同	同	同	同
同	水火再渡	同	同	同	同	同	同	同
同	盜難	同	同	同	同	同	同	同
同	小計				何號より 何號まで	三	三	枚
何月何年 何月何日	新規					壹	壹	枚
何月より 何月まで	通計				何號より 何號まで	四	四	枚

第二號雛形

明治何年
何月より
何月まで 何々
商業 鑑札受拂並鑑札料計算帳

山梨縣 第何區

明治何年何月より何々商業鑑札受拂並鑑札料計算

明治何年何月より越高

第何號より第何號まで

一鑑札何枚

明治何年何月受取高

第何號より第何號まで

一鑑札何枚

合鑑札何枚

内

第何號

新規開業何村

鑑札壹枚

何 某 渡

第何號

水火盜難書替何村

鑑札壹枚

何 某 渡

第何號

改名代替轉居書替何村

鑑札壹枚

何 某 渡

合計鑑札何枚

此鑑札料金

内新規何枚金
書替何枚金

但壹枚金
但壹枚金

差引残

第何號より
第何號まで

鑑札何枚

何月へ越高

右は當第何區明治何年何月より何月まで何々商業鑑札受
拂並鑑札料書面之通に有之候也

年號月日

第何區々長
何の某印

長官宛

第三號雛形

何々
業商
鑑札返納調書

各業限り一冊とすべし

山梨縣 第何區

○乙第百十一號

卅一日

各區

區長

戶長

社寺境外私墾田畑の内上地見分以降の侵墾に係る分地上
 見分の節現境内並山林荒蕪地等に取調置候内を開墾せ
 或は分裂まて地券帳簿へ田畑の名義に記載せま分に
 本年五月より六月に至り上地帳簿へ地券帳簿突合開墾原
 由明了せし分並に明了せざる分とも本年當縣乙第四拾
 五号所有方心得書條款並に所有主取調方離形に照準迅
 速取調券別に番號は地關係の者連署の上來る十一月十二

日迄に區長へ差出し區長は各通へ奥書捺印之區括の上
 同月十五日迄に無相違進達致とべく此旨相違候事
 但本文離形中右はの下は左の通相認可差出事
 上地御見分以降に係る社寺境外私墾田畑の儀本年乙第
 四十五号御達に照準取調可伺出旨今般乙第百十一號を
 以て御達に基き即書面の通取調差上候間何分の御指揮
 被成下度候也

山梨縣第壹區常盤町四番地

又新社主

明治九年十一月 傍訓並出版人 内藤傳右衛門

甲府八日町	五	明	堂
同 柳町	井筒屋	豊兵衛	
山梨郡中牧村	芳賀用	右衛門	
同郡勝沼驛	萩原	榮造	
同郡日川村	志村權	左衛門	
八代郡駒飼驛	風間五	左衛門	
同郡鴨狩津向村	内藤	吉致	
巨摩郡菲崎驛	清水彦	左衛門	
同郡市川大門村	金生屋	藤七	
同郡明穂村	常盤	竹代	
同郡陸合村	伊奈	平・橋	
同郡万澤驛	吉田	富榮	
同郡切石驛	佐野	徳平	

賣 捌 所

同郡歟澤驛 早川省三
都留郡上野原驛 富田秀實
同郡谷村 石村彌兵衛

定價拾貳錢

